

旧統一教会と政界

―教祖の発言から見える歴史

毎日新聞デジタル報道グループ記者

田中裕之



- *関心が薄れた旧統一教会問題
- *及び腰の岸田文雄首相
- *教祖文鮮明の生い立ち
- *発掘された615巻の発言録
- *発言録からわかったこと
- *岸・安倍家と親密になった理由
- *ターゲットとされた安倍晋三氏
- *発言録での言及最大は中曽根康弘氏
- *清話会の中にある温度差
- *相互に利用しあった自民党右派と教団

山縣 皆様こんにちは。（拍手）

今日は、毎日新聞デジタル報道グループの記者をされています田中裕之さんに来ていただきました。田中さんは、このようにばりばりの現役の記者で、最前線でいろいろな取材をされておられる方ですが、政治部でのキャリアが長く、安倍さんのときの首相官邸、それから自民党などの取材をずっとされてきた方です。それから、特別調査ですとか調査報道にもすごく力を発揮しておられます。今回のテーマ、統一教会に関しては、文鮮明の韓国語で記録された発言録というのを探し出されて、その615巻、615ページではなくて615巻を精査されましたの発言を発掘し、その内容から調査、取材をして、一つ一つ記事にするというお仕事をされ

てきました。

2022年11月7日からその記事が出て、今日まで断続的に続いております。最初の記事は毎日新聞2022年11月7日の一面トップ、89年発言録で判明、統一教会が政界工作、文鮮明氏、安倍派を中心というトップ記事になっております。その後も1面等々で健筆を振るっておられます。

田中さんは、このお仕事で新聞労連のジャーナリズム大賞、それからメディア・アンビシャス大賞という二つの賞を受賞されています。地道な調査発掘型の取材と記事が評価されている方です。今日は、雨の中お越しいただきました。田中さん、よろしくお聞きください。

田中さん、よろしくお聞きします。（拍手）